

国公労組への
加入を訴えます！

コロナ禍でも多彩な催し

8時間労働で生活できる賃金を

＝メーデーの歴史＝

1886年、「1日8時間労働」を勝ち取るため、アメリカの労働者がたたかった大規模なストライキがメーデーの起源とされています。当時、働く者を守るルールはほとんどなく、長時間労働が深刻でした。どの国でも労働者は1日10数時間も労働を強いられており、8時間労働は切実な願いでした。

シカゴを中心に全米の労働者がスト

こうした中、全米の労働者が立ち上がりました。1886年5月1日、企業や産業、地域を越えたストライキ（ゼネスト）がシカゴを中心に展開され、全国で35万人もの労働者が結集し、「8時間は労働に、8時間は眠りに、あとの8時間はわれわれの自由に」と歌い、デモ行進しました。

労働者側は大きな成果を得ましたが、経営者と警察による激しい攻撃により、運動は後退せざるを得ませんでした。

米国の労働者は1990年5月1日に再度ゼネストを行うことを決定。連帯して欧州など世界の労働者がストライキとデモに立ち上がりました。この「第1回国際メーデー」を経て、8時間労働制が世界共通の要求となり、メーデーは国際的な労働者の団結の日となりました。

101年前に日本で初のメーデー

日本の第1回メーデーは1920年5月2日、東京の上野公園で開かれました。5千とも1万ともいわれる労働者が結集し、失業防止、最低賃金法、8時間労働制、シベリアからの即時撤兵などを求めました。

1930年代前半には世界恐慌が日本に波及（昭和恐慌）や東北での大凶作で庶民の生活は厳しくなり労働運動も盛り上がり、組合員数は戦前で最高になりました。しかし、1936年には治安維持を理由に中止に追い込まれ、1945年まで中止が続きました。

8時間労働制 時短を求め開催

一八八六年五月一日、アメリカ・シカゴの労働者が「8時間労働」を求めて決起したのがメーデーの起源とされています。日本においても一九二〇年上野公園

労働者が8時間労働制を掲げて取り組んだ全国統一行動が今年で一〇一年目となります。昨年からは、コロナ禍での取り組みを模索する中で、全国各地で多種多様な取り組みが計画されています。GWの狭間の土曜日となりますが、各地でのメーデーに是非、ご参加下さい。

での第一回を皮切りに、戦争時期の一九三六年から一九四五年のメーデーが禁止された時期をのぞき、今回で九二回目の節目のメーデーとなります。五月一日は文字通り、「世界の労働者が連帯する国際

的な統一行動の日」として、歴史と伝統を守り、「ただかうメーデー」を大きく成功させましょう。「働き方改革一括法」が成立し、公務員にも時間外労働の法規制、有給休暇取得の義務化や「同一労働同一賃金」等が施行されています。一方、同時に「定額労働かせ放題法案」「過労死促進法案」などと呼ばれる高度プロフェッショナル制度の導入も法制化されており、裁量労働制の拡大の動きなど労働環境の悪化の危険も潜んでいます。また、「雇用によらない働き方」という動きもあり、労働者が人間らしく生きる権利が奪われようとしています。

適正な労働時間で
充実した余暇・生活

人間らしく生きるため、「生活時間」が注目されています。自由時間、休息時間をいかに確保するか、家族と過ごす時間、育児・介護、地域の町内会・自治会、消防団、PTA、お祭り、趣味、スポーツ、市民運動など、こうした営みが明日への活力を生み、民主主義社会の基盤を強くします。働く者が慢性的に疲弊した状態では仕事も社会も良くなりません。

長時間労働は非正規労働や個人請負で働く人ほど切実です。複数の仕事を掛け持ちし、残業時の賃金割増もない働き方等の実態を改善し、良質な雇用を増やすとともに、8時間労働で暮らせるよう最低賃金の大幅引き上げが必要です。

私たちの職場でも、超過勤務縮減はおさなりにされています。初任給が最低賃金ギリギリ等の問題があります。

労働組合の活動で
平和な日本を築こう

「メーデーのない五月」を再び迎えることのないよう、あなたもメーデーに参加してみませんか。

